

第 1 部会	分野	みどり・産業				
A 欄に関する意見メモ			C 欄に関する意見メモ			
<p>≪現基本構想の進捗検証・評価≫ 【みどり・農】 ○下がっていた緑被率が 2000 年代に入ってどんどん戻ってきた。屋上緑化、民有地緑化に対する補助を頑張った結果である。 ○みどりの取組を積極的に推進しており良くやっている。緑被率も高まっている。 ○個人所有のみどりに対する補助制度はあるが、もう少し手厚い支援が必要ではないか。 ○農とのふれあう機会の充実はよくやっている。 ○みどりの基本計画において、各施策に繋がりをもち取組を進めていることは評価できる。 【産業】 ○座・高円寺ができ、劇場と連携した様々な取組が生まれた。今では劇場を中心として、商店街全体を劇場にするという発想で取組がうまく進んでいる。 ≪今後の社会環境や区民生活・意識の変化等の新たな視点≫ 【みどり】 ○近年激甚化する災害にあつて、(倒木など)民有地のみどりを支えている人たちが困っている。 ○グリーンインフラは防災に、副次的にはコミュニティに役立つ。 ○路地裏に住民が花を植えることで空き巣が激減したという新聞記事を読んだ。美しさだけでなく、みどりの機能に防災等の安心なまちづくりという視点を取り入れたらどうか。 ○みどりの質の向上が必要。 【農地】 ○特定生産緑地制度により、長く営農できるようになったが担い手が少ない実態がある。農地の貸借制度もあるので、農地の減少幅は減っていくのではないか。 ○23区において、杉並は農福連携、都市農地に強みを持っている。位置づけを高めていければと思う。 【産業】 ○職住一致の働き方が増えていくだろう。区に住んで、区で働く人にとって過ごしやすいまちのという視点を加えてはどうだろう。 ○イノベーションは辺境で生まれる。杉並が辺境というわけではないが、区部西側に立地し、豊かな住宅環境がある。新しいアイデアが生まれやすいのではないか。 【その他】 ○総花的か、それともポイントを絞るか議論が必要ではないか。</p>			<p>≪基本的な取組の方向性≫ 【みどり】 ○民有地の樹木を誰が支えていくのか。屋敷林を中心にサポートを強化する必要があるのではないか。 ○杉並のみどりの7割が民有地という特徴。誰がコストを負担するか。自治体のテリトリーを拡大できないだろうか。支援だけでなく、利活用することも大事。 ○区には、グリーンインフラの先頭に立つ意気込みで積極的に推進して欲しい。 ○みどりの質を高める必要がある。ストーリーやデザイン性をもって質を高める取組を推進して欲しい。 ○公共性を広く捉えることが必要。広く捉えた上で、私有財産に対しても行政が支援する必要があるのではないか。 ○緑地は、災害時の被害抑制だけでなく、初動期には避難場所、応急期には応援部隊の拠点となる。受援計画等で位置づけていく必要がある。 ○区内のみどりに偏りがある。区内全体がみどりであふれるようなメッセージを区民に伝えられれば良いと思う。 ○屋敷林の管理はほとんどが個人負担。屋敷林の減少スピードを遅らせるには、もう少し手厚い支援が必要ではないか。 ○屋敷林など、みどりのメリットを享受するがデメリットは受け付けない人もいる。区として理解を広げていくことが必要ではないか。 ○杉並の公共財として一般化できれば区民の理解や協力体制を築けるのではないか。 ○小規模のみどりに支援やサポートが足りない。事業というと大規模なところに目が行きがち。小規模なみどりにも目を向ける必要がある。 ○生物多様性、在来種の管理といった視点を踏まえて取組を深めて欲しい。 ○みどりはSDGsの一丁目一番地。SDGsを掲げるなら、大胆な施策を打っていくことが求められる。 ○他区と連携した生物多様性の取組を進めたらどうか。また、グリーンインフラは区域を超えて広域的な視点で捉えるべき。 【農地】 ○農地を産業として捉え、農地保全にウェイトを置くことが必要ではないか。農地から他用途への転用を制限することも必要。所有者が農業をできないなら、農業をやりたい人ができるようにすることが必要。 ○農地が減っている。個人所有で立ち入りにくい問題だが、公共財として捉え行政が関わっていくことができないだろうか。 ○区民にも一定の理解が進んでいる。今後10年は区民が関与していくことを区が支援していくことが必要。 ○生物資源の保全と活用(地元食材の活用)により、農地の質を高めてもらいたい。 【産業】 ○多世代、ジェンダーレスがキーワードになる。様々な働き手の人たちが働く機会をもてるような地域産業支援を掲げてもいいのではないか。 ○地元で元気に働くには、やはり新たな産業が必要。区の産業への意気込みを示すと良いのではないか。 ○在宅勤務とは、家から近い場所で仕事することも含めたもの。家から近い魅力的な場所で仕事することが在宅勤務の本当の意味ではないか。都市間競争が進む中、今あるものでどうやって区を魅力的にブランディングしていくか考えていく必要がある。 ○経済施策と地域の文化が両輪になってまちの発展が図られる。商店街支援や観光促進のほかに、文化交流の視点を入れてもよいのではないか。文化が経済に波及していく、ブランドを創ることが必要である。 ○知的な集積をどう作っていくか。知的産業の元になるような、文化的な刺激があるとよい。住宅系市街地は文化的コンテンツと相性がよいのではないか。 ○文化活動を発表できる場づくりが重要。プロを目指している人などに発表の機会・場を用意することが必要。 ○コロナ禍で外国人観光客が減少している。新基本構想の前半の数期間は、地元(広げては都内や関東近県)向けの施策に力をいれてはどうか。近隣区や友好自治体との連携についても考えた方がよい。 ○区域を超えた連携や様々な組織・利害関係者との連携が必要となる観光事業の推進は、区の一部署の取組では限界があるのではないか。観光協会(又はそれに準ずる組織)が必要ではないか。<後日追加意見></p>		<p>≪具体的な手段・方法、取組など≫ 【みどり】 ○(民有地のみどりに)公的補助を入れたものは、庭巡りができるようにできないだろうか。 ○例えば荻窪において、荻外荘までの経路に緑化を進めていくといったメッセージを区民に伝えられれば良いのではないか。 ○SDGsの観点からとらえ直したみどりや農地のあり方をはっきりと示すことで、みどり・農地を良いものとして位置づけ、社会的なコンセンサスを得やすくなるのではないか。 ○グリーンインフラは、新しい事業を始めるだけでなく、既存の事業を見直して位置付ければお金がかからない。 【農地】 ○農地から宅地転用する際に転用税を課すなど、国レベルの話であるが税制改正により課題解決を図る方法もあるかもしれない。 ○農地確保を計画誘導するのは難しい。補助・支援など事業系の制度拡充(計画から事業へ)により、担い手の支援を含めてパッケージで支援することが不可欠。 ○農地の貸借制度がある。活用によって農地の減少幅は減っていくのではないか。 ○宅地化農地の生産緑地化。 ○市民農園のニーズは非常に高い。マンパワーの活用として、民間に農地に関わっていくようなことができないか。 【産業】 ○就労支援では伴走型の支援策も重要。社会的に課題を抱えている人にはオーダーメイドの支援策と相性がよい。 ○コロナ禍で増加しているバーチャルツアーや YouTube、Instagram 等を通じた魅力発信は、宣伝効果が大きい。コロナ禍に関わらず推進して欲しい。<後日追加意見> ○アニメーションミュージアムを、若手の作品を発表する場にすれば、シリコンバレー効果で人が集まってくるのではないか。 ○海外の方は、日本の文化に触れたくて来る方もいる。区には立派な給食や荻窪の「オーロラの木」といったモニュメントなど様々な資源(宝)がある。そういったものを発掘してはどうか。 ○観光まちづくりには、ベースとなる地域の取組が必要と考える。 ・ボランティアや語り部等の募集・育成(人づくり) ・景観づくり、商店街支援、公園整備、農地保全、文化支援策との連携。 ・バス路線再編、シェアサイクル、歩行空間整備、MaaS など交通施策との連携。<後日追加意見></p>	
B 欄に関する意見メモ						
<p>≪目指すべきまちの姿≫ ○暮らしを支えるみどり(グリーンインフラ的視点)が身近にあふれるまち ○区内のみどり(公共財)を共有し、共に支え合い守りつないでいくまち ○良質な住環境と産業が調和した、新たな文化・イノベーションが生まれ、にぎわいのあるまち ○多様な人々が働き、豊かな生活を実感できるまち ≪目指すべきまちの姿を設定した考え方など≫ 【みどり】 ○区民のために身近なみどりを大切にしていくことが大事。 ○みどりの量で評価しがちだが、今後は質の面(ランドスケープ、景観)を追求しステージを一段上げてほしい。 ○所有者・維持管理者と利用者が共に支え合っていくようなみどりのまちづくりの仕組みを作る視点が必要。 ○質の向上を図ることが必要。生物多様性の視点も加えてほしい。 【農地】 ○公共財として捉え、関わっていくことが大事。 ○生物資源の保全と活用(地元食材の活用)により、農地の質を高めてもらいたい。 【産業】 ○(伴走型支援により)社会的に困窮する人をつくらないのは、防犯上も重要。産業政策を超えて地域の安定性を高めるもの。 ○住宅都市であることをふまえ、都市と産業の共生・共存をどう図っていくかという視点が重要。 ○消費や就職など、区内で全てを完結できることが必要で、このような姿が住宅都市杉並として目指すべき姿であって欲しい。 ○基本構想に産業を色濃く盛り込んだ方がよい。</p>						